

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まほろばの郷 放課後等デイサービス (共生型)		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型の特性を活かし、高齢者との交流イベントを通して人間関係と社会性の育成	季節行事 (ひな祭り、お花見、夏祭り、敬老の日、クリスマス等) を取り入れ、高齢者と共にレクリエーションを楽しむことで、自然な交流が生まれるよう取り組んでいます。	社内研修やカンファレンスで情報共有を行い、児童と高齢者が積極的に関わることのできる活動をさらに充実させていきます。
2	広い敷地を活かし、安全に配慮した活動を通して運動機能や感覚を育成	遊具や砂場を整備し、安全対策を講じることで安心して遊べる環境を提供。活動前にルール説明を行い、児童の特性に応じた支援ができるよう職員を配置しています。	年2回の防災訓練を実施し、命を守るの大切さを児童と一緒に認識を深める。また、砂場にはブルーシートを設置し、野生動物による汚染を防止するなど、衛生管理にも配慮しています。
3	四季折々の自然体験を通して五感を育む環境	野菜の栽培や昆虫採集などを通して自然の豊かさを体感できるよう指導し、児童の興味や発見を大切にしています。	野菜の収穫やおたまじゃくしの成長の観察等を通して、植物や生き物への関心を深める取り組みを継続しています。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同年代の児童が少なく、利用者間の交流に限られる	利用者が少ないことや個々の特性の違いにより、共通の関心や活動が見つかりにくい	共通の興味や関心をもとに小グループでの活動を設け、高齢者との交流も交えながら自然な人間関係の構築を支援します。
2	遠方の児童の送迎に課題がある	小中学校の終業時間が重なり、送迎車及び職員数量が限りあるので、遠方の児童の送迎が難しい	放デイ職員や他部門と連携し、送迎体制の強化や効率的なルート構築に努めます。
3	自然体験や社会見学等の外出行事が回数に限られている	学校授業がある日は授業後のサービス利用時間が短いため、施設外の公共の場での活動が難しい場合がある	感覚や発達特性に配慮し、五感を刺激できる外出先を工夫する。また、無理のない範囲で学校授業がない日を利用して、外出活動の機会を増やしていきます。